

令和7年度備前県民局地域づくり支援事業 最終報告

実施団体：一般社団法人犬島ととと倶楽部

担当課：備前県民局地域づくり推進課

<事業名>犬島新聞第100号記念号の制作&記念祭の開催

<事業概要・各主体の役割>

(事業概要)

本事業は「アートの島」として知られる、岡山市犬島において実施された事業である。「観光客に犬島を知ってもらうこと」「島民に昔を懐かしんでもらうこと」を目的に、2017年1月に発足した犬島新聞部は、月刊犬島新聞（壁新聞）を通じて、島の歴史・伝統・文化・方言・島民の生い立ちなど幅広い情報を届けてきた。令和7年5月に第100号を迎えたことから、瀬戸内国際芸術祭2025（以下、瀬戸芸）の開催に合わせて「犬島新聞第100号記念特別号（以下、記念号）」を制作。完成を記念して「犬島新聞第100号記念祭（以下、記念祭）」を開催した。

(各主体の役割)

- ・実施団体：事業の企画、事業報告書の作成
- ・担当課：補助金の交付、広報の協力

<実施状況>

■ 記念号について

月刊犬島新聞は、取材から配布するまでの全てを内製化しているが、本記念号は、地元紙・山陽新聞社に制作を委託。インバウンド客も楽しめるように「QR Translator*」を導入し多言語対応した。

編集・発行：山陽新聞社

取材：犬島新聞部、山陽新聞社「海を渡る」取材班

協力：犬島島民、島内外各事業者、大阪工業大学、ノートルダム清心女子大学

仕様：全8ページフルカラー

発行部数：2,000部

掲載内容：「犬島新聞100号達成」「移住家族に聞く暮らしのリアル」「島民一家族」「犬島の凶」「大学生の写真コンテストおよび活動紹介」「犬島今昔写真館」「島の盆踊り かつてのにぎわい復活」
他

*QR Translator：専用QRコードを読み取ると、利用者のスマホの設定言語を認識し日本語文書を自動翻訳（48言語対応）するシステム。



島内全世帯に記念号とお祝いの赤飯を配達

■ 記念祭について

島民と観光客のコミュニケーションの場を創り、関係人口創出のきっかけを作ることを目的に、以下の内容で実施。

開催日：9月20日(土)、10月18日(土)、11月2日(日)

開催時間：各回10時～15時

場所：犬島コミュニティハウス

来場者数：合計約600名（コンテンツのいずれかに接触した人数をカウント）

来場者属性：瀬戸芸観光客90%、島民やその親族5%、島の関係者5%

コンテンツ：①記念号配布：来場者へ記念号を無料配布

②島の伝統料理の販売：島のご婦人手製の料理を販売

③ショートセミナー：島の成り立ちや時代の変遷を学べるガイダンスを提供

④ショートツアー：島の採石の歴史を案内するガイドツアーを提供

⑤写真展：島の暮らし・風景・人物などの写真を展示

⑥犬島石の歴史展：大阪工業大学学生による展示

告知方法：A4サイズ告知チラシを島内や周辺地域の各所に配架。SNSにて告知。

メディア：山陽新聞社、NHK、読売新聞社、日本経済新聞社、FM ラジオおかやま



会場の様子



記念祭の告知看板



町内会長 設営手伝い



大阪工業大学による『石の展示会』



島の伝統料理の販売



ショートツアーの様子



来場して下さった島民



来場者へのテレビ取材

<成果・効果>

実施団体：

◇記念号：さまざまな角度から犬島の現状を伝えることができる内容に仕上がりに、記念号をきっかけに「犬島新聞」そのものの認知度向上に繋がった。3面の「島民一家族」には、全島民に参加いただいたことは意義深く、島にとっての犬島新聞の立ち位置を示す結果となった。また、外部から依頼を受けての新聞制作は、山陽新聞社にとって初の試みで、犬島と新聞社双方にとって記念すべき事業となった。記念号に対する反応は好評で、島民の子どもや孫、親戚、知り合いに送ったり、元島民や図書館などからも郵送依頼が相次ぎ、現代のデジタル時代においても、新聞の力を改めて知ることができた。

◇記念祭：各コンテンツの結果（3回合計）

- ① 記念号配布：観光客へ約350部配布＋家族や関係者へ約100部配布
- ② 島の伝統料理の販売：ばら寿司を約150食販売＋揚げ物等も販売
- ③ ショートセミナー：10組の参加
- ④ ショートツアー：10組の参加
- ⑤ 写真展：来場者約80名
- ⑥ 犬島石の歴史展：計10名の学生が来場者約150名に対応

6つのコンテンツを通じて、島民や島の関係者と来場者がコミュニケーションを図る機会を作ることができた。「観光するだけでは現地住民と話したり、島の歴史を知ることができる機会は少ないので、こういった機会は大変ありがたい」といった感想をいただいた。また、町内会長には設営と片付けに、婦人部には料理の準備と販売で携わっていただくなど、結果的に全島民の約3分の1の島民が関わるイベントとなった。普段は自宅でこもりがちの90歳超の島民も来場されるなど、日常生活における楽しみの一つとなったことを願う。

担当課：

- ・当該事業は来場者と島民及び関係者が直接対話し、相互に学び合う双方向の交流機会を創出した点において高く評価できる。セミナーやガイドツアー、伝統料理の販売、写真展を通じて、来場者が犬島の観光資源や歴史文化への理解を深めるとともに、島民にとっても外部の視点や反応に触れる機会となり、地域の魅力を再認識する契機となっている。
- ・こういった双方向の交流機会は地域への共感や愛着の醸成に繋がるものであり、関係人口の創出に向けた基盤形成として有効な取組であったと評価できる。

<課題・今後の方向性>

(課題)

実施団体：記念祭当日や開催日以降に取材を受けることはあったものの、事前の広報活動が不十分だったため、記念祭の認知度は期待に達しなかった。事業の実施で手一杯になってしまったことで、記念祭の評価を測るツール（アンケート等）を通じて、今後の島のワークショップやイベント情報を来場者にDMする仕組みなど、今回の来場者を再来島に繋げる/関係人口へと繋げるための具体的な次の一手に欠けていた。

担当課：

- ・事前の広報活動が十分に行えていない場合は、潜在的な関心層への訴求が限定的となってしまう。また、来島された方に対する積極的な声掛け、アプローチがやや不足していたように感じる部分もあった。
- ・単発事業にとどまった場合は、関係人口の継続的な創出・定着につなぐににくいので、継続して来島してもらえるような方策を検討する必要がある。

(今後の方向性)

実施団体：「関係人口創出のきっかけにする」ことが目的の事業のため、効果を検証できるのはこれからになる。今回の事業を通じ認知度が向上した犬島新聞を「島の情報誌」として捉え直すことで、島のワークショップやイベント情報を来島者に伝えていき、リピート来島を促したい。そのためにも、記念号は当法人の土産販売所に加えて、島内外のイベント等でも積極的に配布を続ける。今後の犬島新聞の節目の記念にも、今回と同様の催事を開いて（一部コンテンツを有料化し）犬島に触れる機会を増やすことで「犬島ファン」の獲得に繋げたい。将来的には、空き家の管理・修繕や耕作放棄地の活用、生業の創出など、島の根本的な課題解決と一緒に取り組んで

もらえるような人材発掘を目指す。実施団体と担当課の協力はもちろん、メディアも効果的に活用して、アート以外の側面での犬島の認知向上と関係人口の創出、ひいては瀬戸内エリアの活性化に繋げていきたい。

担当課：

- ・イベント参加者との継続的な接点を確保するため、SNS 等を活用したフォローアップ体制を構築し、関係人口の定着化を促進することが重要である。
- ・単発イベントにとどめることなく、継続的な実施やテーマ設定の工夫により、年間を通じた誘客施策へと発展させることが望まれる。そのためにも、島民の主体的な関与を一層促進し、地域内の機運醸成と人材育成に繋げる取組を強化することで、犬島の更なる活性化を期待したい。

※ チラシ、パンフレット等の作成物がありましたら、1部添付してください。

犬島新聞100号

記念祭

観光客に犬島のことを知ってもらいたい、島民に昔を懐かしんでもらいたいという想いで、2017年1月にスタートした犬島新聞。

犬島の史実、島民の生き立ち、観光情報、生活情報、豆知識など犬島に関する様々なことを綴り、100号を発行することができました。100号の発行を記念して「犬島新聞 100号記念祭」を開催します。一緒に喜びを分かち合いましょう。

地元紙山陽新聞とコラボした
100号記念号を無料配布します

きっと特別になる3日間

第1回
9/20
土

第2回
10/18
土

第3回
11/2
日

各日 10:00 ~ 15:00 場所 犬島コミュニティハウス

犬島婦人部による振る舞い料理やお土産販売

古写真や日常風景の「犬島写真展」、大阪工業大学による「犬島石の歴史展」などを予定しています

犬島町内会新聞部

